

## 成人の方で接種を検討すべきワクチン



### インフルエンザワクチン

- ・65歳以上の方、60-64歳で心臓・腎臓・呼吸器障害のある方は**定期接種の対象**（自治体から一部費用補助があります）

### 新型コロナウイルスワクチン

- ・65歳以上の方、60-64歳で心臓・腎臓・呼吸器の障害があり身の回りの生活が極度に制限される方は**定期接種の対象**
- ・インフルエンザワクチンとの同時接種も可能

### RSウイルスワクチン

- ・50歳以上で、慢性の呼吸器疾患（喘息、COPD、気管支拡張症など）・心疾患（心不全など）をお持ちの方はRSウイルス感染による重症化が危惧される
- ・小さな子供さんと同居している方はRSウイルスをもらいやすい

### 带状疱疹ワクチン

- ・50歳以上で基礎疾患のある方に推奨
- ・65歳の方から5歳年齢ごとの方は**定期接種の対象**
- ・高齢になるにつれ带状疱疹にかかりやすくなり、80歳までに3人に1人がかかるといわれている
- ・ワクチン接種は通常2-6カ月空けて2回行う

## 肺炎球菌ワクチンについて

島根大学医学部附属病院  
呼吸器・化学療法内科

監修  
濱口 愛、磯部 威



# 肺炎を予防して 健康寿命を延ばしましょう

肺炎は日本人の死因の上位にあります

2024年の死亡順位		死亡者数
1	がん	384 099
2	心疾患	226 277
3	老衰	206 882
4	脳血管疾患	102 808
5	<b>肺炎</b>	<b>80 171</b>
6	<b>誤嚥性肺炎</b>	<b>60 190</b>

肺炎球菌は  
肺炎の原因菌の  
トップです

こんな方は侵襲性肺炎球菌感染症<sup>※1</sup>のハイリスク者です

- ①65歳以上の方
- ②65歳未満で以下のような基礎疾患を持つ方  
慢性呼吸器疾患、糖尿病、アルコール依存症  
慢性心疾患、慢性肝疾患
- ③65歳未満で以下のような免疫不全状態をもつ方  
固形がん、抗がん剤治療中、ステロイド治療中、透析  
自己免疫性疾患、無脾症、免疫抑制剤治療  
生物学的製剤治療、血液幹細胞移植後

※1:肺炎球菌が血液や髄液など、本来無菌である場所で増殖した重篤な感染症

- ◆肺炎球菌ワクチンは肺炎球菌による重症化を防ぎます
- ◆インフルエンザやコロナ感染後に肺炎球菌肺炎を続発しやすいことも知られています
- ◆接種後の副反応として注射部位の疼痛、腫脹、硬結などが見られることがあります

他のワクチンとの接種間隔については医師と相談してください

## 肺炎球菌ワクチンの種類と違い

### PCV20 (プレベナー20®)

- ・2026年4月から65歳は公費助成の対象
- ・血清型のカバー率<sup>※2</sup> : 50%

### PCV21 (キャップボックス®)

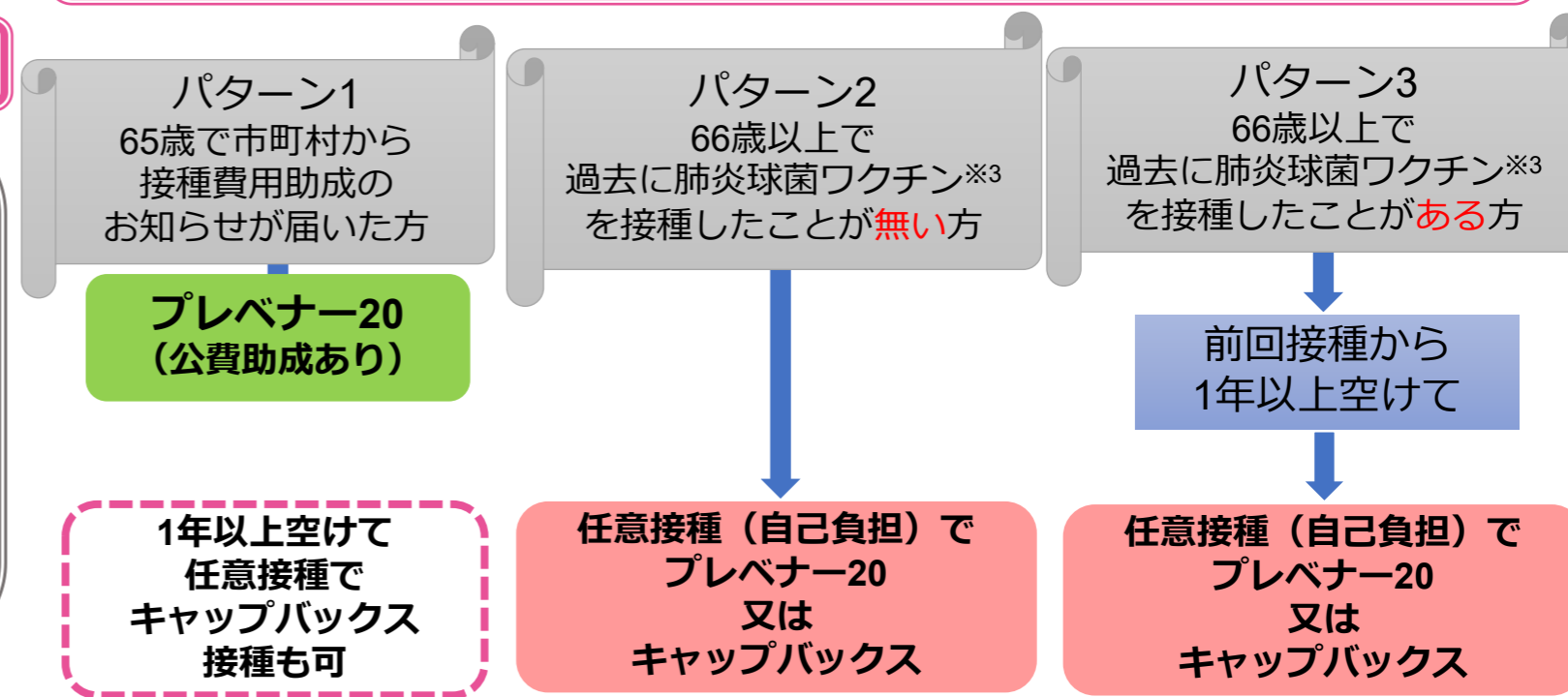
- ・自己負担での接種
- ・血清型のカバー率<sup>※2</sup> : 78%

2025年まで定期接種として接種していたPPSV23 (ニューモボックス®) を過去に接種された方に対して、PPSV23の再接種は原則として行いません

※2:成人IPDサーベイランスにおける2022-2024年の血清型カバー率

## 肺炎球菌ワクチンの接種スケジュール

「65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方 (2026年4月) 参照」



※3:PPSV23 (ニューモボックス)、PCV13 (プレベナー13)、PCV15 (バクニューバンス)、PCV20 (プレベナー20)

あなたはパターン ( ) です。

PCV20およびPCV21接種後のワクチン効果の持続は5年程度と考えられるため、免疫原性の観点からはPCV20あるいはPCV21接種後5年以降の再接種が必要と考えられます。しかしながら、現時点でPCV20およびPCV21接種後の再接種の免疫原性、安全性のデータはありません。